

2025 年度
事業報告書

2025 年 4 月 01 日から
2026 年 3 月 31 日まで



公益財団法人 日本科学技術振興財団

目 次

【総合活動】

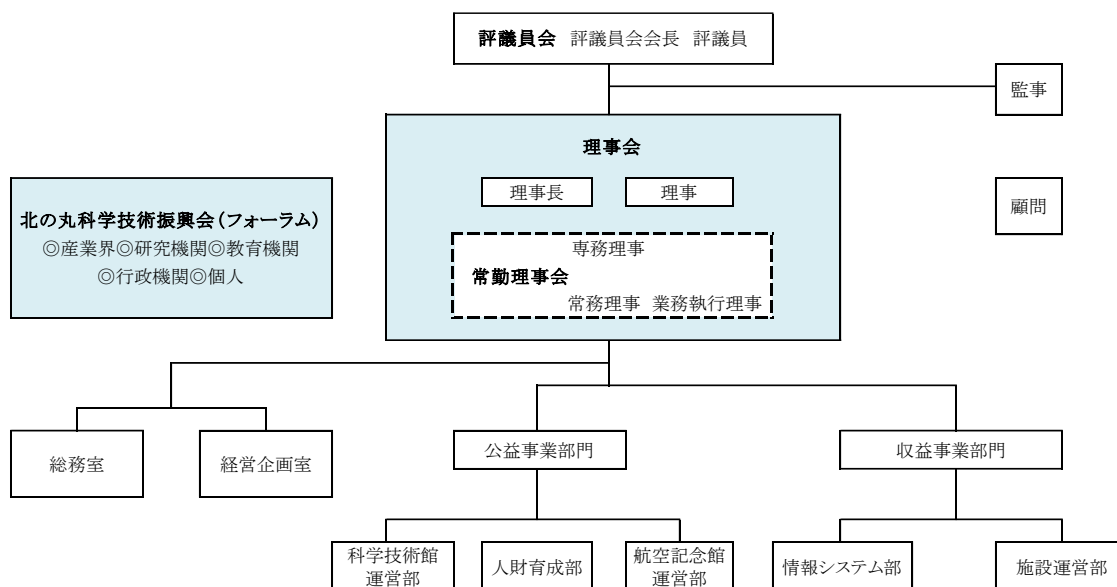
| | |
|----------------------|---|
| 1. 当財団の組織 | 1 |
| 2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 | 1 |
| 3. 会議の開催 | 2 |
| 4. 対外機関との連携活動 | 3 |
| 5. 広報活動 | 3 |
| 6. 感染症対策等について | 4 |

【事業活動】

| | |
|-------------------------------|----|
| I. 科学技術振興事業 | 5 |
| 1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援 | 5 |
| 2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催 | 16 |
| 3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究 | 25 |
| II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業 | 25 |
| III. 科学技術館施設の利用促進事業 | 26 |
| IV. 補助を得て実施する事業 | 26 |
| V. 助成を得て実施する事業 | 26 |
| VI. 2025年度イベント開催一覧表 | 28 |

[総合活動]

1. 当財団の組織 (2026年3月31日現在)



2. 代表理事及び業務執行理事の業務分担 (2026年3月31日現在)

| 氏名 | 業務執行理事 | 役職 | 業務分担 |
|--------|--------|------|--|
| 東原 敏昭 | 代表理事 | 理事長 | 法人代表 |
| 山口 雅彦 | 代表理事 | 専務理事 | 法人代表 財団経営全般 航空記念館運営部担当 |
| 柘水 久恒 | 業務執行理事 | 常務理事 | 財団経営全般(専務理事補佐) 総務室担当 情報システム部担当 施設運営部担当 科学技術館建屋改修担当 |
| 大久保 賢一 | 業務執行理事 | 常務理事 | 科学技術館運営部担当 経営企画室担当補佐 |
| 木本 徹 | 業務執行理事 | 理事 | 科学技術映像祭担当 特命事項担当 |
| 中島 康隆 | 業務執行理事 | 理事 | 経営企画室担当 兼 経営企画室室長 人財育成部担当 兼 人財育成部部长 |

3. 会議の開催

(1) 定時評議員会及び書面評議員会の開催

①第15回定時評議員会 2025年6月20日

- 議案1. 2024年度の決算書類の承認の件
- 議案2. 評議員選任の件
- 議案3. 理事選任の件
- 議案4. 監事選任の件
- 議案5. 監事に頼する報酬支払承認の件

②第5回書面評議員会 2025年8月1日

- 議案1. 評議員選任の件

○上記の評議員会に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(2) 通常理事会、臨時理事会及び書面理事会の開催

①第27回通常理事会 2025年6月5日

- 議案1. 2024年度の事業報告及び決算書類の承認の件
- 議案2. 財産管理運用規則の一部変更の件
- 議案3. 定時評議員会の招集の件
- 議案4. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件
- 議案5. 理事会提案として評議員会に提案する理事候補者の決定の件
- 議案6. 理事会提案として評議員会に提案する監事候補者の決定の件
- 議案7. 2025年度補助・助成事業実施に関する件

②第13回臨時理事会 2025年6月20日

- 議案1. 代表理事選定の件
- 議案2. 理事長及び専務理事各1名選定の件
- 議案3. 理事長職務代行順位の決定の件
- 議案4. 業務執行理事の選定の件
- 議案5. 常務理事の選定の件
- 議案6. 業務執行理事の業務分担決定の件
- 議案7. 理事の報酬額の決定の件
- 議案8. 顧問専任の件

③第27回書面理事会 2025年7月18日

- 議案1. 臨時理事会の招集について
- 議案2. 理事会提案として評議員会に提案する評議員候補者の決定の件

④第28回通常理事会 2026年3月19日

- 議案1. 2026年度事業計画及び2026年度収支予算書ならびに資金調達及び設備投資の見込みを

記載した書類の承認の件

議案 2. 特定費用準備資金等の保有に関する承認の件

議案 3. 役員賠償責任保険(D&O保険)の契約の件

○上記の理事会(書面理事会を含む)に付議された議案は、いずれも承認可決されました。

(3) 常勤理事会の開催

定款第 41 条第 2 項及び常勤理事会運営規則に基づいて、毎月 2 回(原則)、常勤の理事 5 名による常勤理事会を開催して、理事会決定による事業計画に従い、重要事項の審議、決定を行い、また各事業の報告により情報の共有を図っている。会議の資料及び結果については、電子メールにより、理事及び監事の全員に送付しました。

4. 対外機関との連携活動

(1) 北の丸科学技術振興会

対外機関に対し財団の状況を報告し、財団活動の目的への賛同を得ることにより新たに 5 会員の入会があり、北の丸科学技術振興会の法人会員数は、既存会員と合わせ 61 となりました。

(2) 各種外部企業・団体との連携活動

北の丸科学技術振興会の既存会員を含め、外部の企業・団体との関係づくりを行い、複数の企業・団体と連携活動を実施しました。

5. 広報活動

財団全体に関わる各種活動をステークホルダーに対して PR することを目的として、プレスリリース(ニュースリリース)の配信、広報誌「JSF TODAY」の発行、SNS やメール配信を行いました。

(1) プレスリリース(ニュースリリース)の配信

科学技術の普及啓発活動や、新しいイベントなどの取り組みに関する情報を配信しました。

- ①「第 66 回科学技術映像祭」入選作品の決定および入選作品発表会・表彰状授与式について(7 月)
- ②科学技術館にゴジラ襲来!!「ゴジラサイエンス展 ～脅威に科学で立ち向かう～」開催!(11 月、12 月)

(2) 財団広報誌「JSF Today」の制作・発行

財団の諸活動についてステークホルダーの皆様に深くご理解いただくことを目的として、広報誌を各号 1,000 部発行しました。当財団・科学技術館の関係企業・出展団体、関係官庁、教育機関、博物館等、及び、一般の方々に対し、科学技術館の新展示やイベント情報、演示プログラム等を紹介しました。

- ①No. 176 「展示で魅せる新時代」(4 月発行)
- ②No. 177 「演示プログラムがいっぱい」(7 月発行)

(3) SNS やメール配信等による情報発信の充実

科学技術館や所沢航空発祥記念館で行うイベントの開催・展示の紹介、財団が行う科学技術理解増活動の参加募集など、科学技術館並びに財団活動の新着情報を X(旧 Twitter)、Instagram などの SNS やホームページ、メール配信サービス等の適切な手法を用いて一般の方々に向けてリアルタイムに発信しました。

また、動画を活用した安定した投稿を継続し、Instagram ではフォロワーが 2,000 人以上増加し、X Instagram 共に 7,000 フォロワー超えを達成し、2 本柱の SNS として定着しました。特にゴジラサイエンス展や夏休みイベントの PR では投稿数を大幅に増やし、高い反応数値を記録しました（ゴジラサイエンス展では最大 17 万インプレッションを記録）。

①X(旧 Twitter)による情報発信

4 月 1 日から 3 月 31 日まで 241 本の投稿により、フォロワー数は前年度から 1,033 増の 7,390 (4 月 1 日現在)

②Instagram による情報発信

4 月 1 日から 3 月 31 日まで 149 本の投稿により、フォロワー数は前年度から 2,069 増の 7,005 (4 月 1 日現在)

③メールマガジンによる情報発信

834 号(4 月 16 日)から 845 号(3 月 18 日)まで 12 号配信。配信数 10,713 通(3 月 18 日現在)

6. 感染症対策等について

新型コロナウイルス感染症は収束したが、感染症発生時の業務ガイドラインの見直し整備を、適宜行いました。

財団職員及び来館者が安全で安心できる職場、科学技術館である様、作業環境の見直し改善、衛生面での対策を徹底しました。

[事業活動]

I. 科学技術振興事業

1. 科学技術館の運営及び他館の企画開発・運営・保守支援

1-1. 科学技術館の運営事業

■入館者状況

今年度は、年間を通じて個人有料入館者数の増加が昨年度に続き顕著であったこと、5月～7月の団体利用の増加、特別展を含むイベント開催増等の要因により、入館者数は約49.9万人となった。2024年度比107.68%の入館者数となった。

<入館者状況比較>

| | 2025年度(人) | 2024年度(人) | 2025/2024 (%) |
|-----|-----------|-----------|---------------|
| 4月 | 28,502 | 23,365 | 122.0 |
| 5月 | 42,024 | 37,673 | 111.6 |
| 6月 | 67,370 | 61,566 | 109.4 |
| 7月 | 64,001 | 58,107 | 110.1 |
| 8月 | 55,386 | 43,634 | 126.9 |
| 9月 | 32,570 | 31,405 | 103.7 |
| 10月 | 27,214 | 30,497 | 89.2 |
| 11月 | 40,536 | 38,408 | 105.5 |
| 12月 | 35,902 | 34,110 | 105.3 |
| 1月 | 41,420 | 31,520 | 131.4 |
| 2月 | 33,840 | 41,903 | 80.76 |
| 3月 | 30,378 | 31,337 | 96.94 |
| 累計 | 499,143 | 463,525 | 107.68 |

科学技術館の運営では、入館者増(入館料収入増)へのさまざまな取り組みが大前提であるが、展示の新設・更新・開発やイベント開催などの「(1)科学技術館の直接的な運営に対する取り組み」と、これまで培ってきた既存のコンテンツやノウハウを提供する「(2)他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み」とに区分される。

科学技術館の活動の二つの区分を明確にして運営に取り組んだ。

(1) 科学技術館の直接的な運営に対する取り組み

①施設運営補助プログラムの開発

博物館運営に必要な運営補助プログラムの開発にあたり、全体構成初案を立案し、下記それぞれ

について改良・試作・検討を実施した。

- 1) 整理券自動発券機
設定項目の詳細化、最新版リリース
- 2) ウェブアプリ用キオスクモードプログラム
開発と巡回展示物への組み込み
- 3) 入館特典ウェブアプリ
開発、初版リリース
- 4) スタッフ応募ページ
レイアウト改良と最新版リリース
- 5) お土産シールディスプレイ
メカ開発と QR コード読み取りプログラムの試作
- 6) アンケートページ生成テンプレート
お土産シールディスプレイとの連携テスト
- 7) ロッカー監視用超小型ウェブカメラ
試作と動作テスト
- 8) インボリュート歯車設計プログラム
パラメータ微調整と教材試作における試用
- 9) 高解像度 USB カメラ表示ソフト
演示プログラムに組み込み動作テスト

②館内イベントの開催増

常設展示見学目的以外の入館者増への取り組みとして、館内で特別展、既存の持込・共催イベント、館内スタッフ運営イベント、また新規イベントを今年度も多数実施した。年間で延べ 215 日、492 回実施した。

詳細は P28 からの「2025 年度イベント開催一覧表」参照。

③既存施設の積極的な貸出し

- 1) 館内イベントを増やすため、イベント会場の提供を積極的に提案し館内施設の有効活用を促進し打診案件に対して積極的な提案を実施した。
- 2) 施設活用に関する案内、館内でイベントを実施するための案内について情報発信を実施したことによる問合せに対し、利用促進の調整・案内などを随時行った。実績については下記の通り。

④戦略的広報手段の確立

SNS でターゲット層の興味を引くイベント情報等を発信して話題を作り、詳細情報を網羅した科学技術館のホームページへ誘導することで、個人利用による入館者の属性・思考を調査し、個人利用者向けのピンポイントな広報手段を確立した。

- 1) SNS での発信と連動
個人来館の大人向けに、平日 15:00 からの入館割引を 12 月に 1 ヶ月間試行した。
- 2) 外部サイト「いこーよ」の活用

幼児・低学年の親に向けた広報手段として外部サイト「いこーよ」を活用し、クーポンによる割引制度を実施して、「いこーよ」でのランキングの上昇につなげ、来館者誘致を図った。

⑤出展誘致・展示更新

新展示室の設置や、展示のリニューアル、オリジナル展示の設置など、下記のように取り組んだ。

1) 新展示室の設置

4階E室に、一般財団法人家電製品協会による、家電リサイクルに関する展示、「家電リサイクルワールド」を新設し、3月6日より展示室を公開した。

2) 展示室・産業センター出展のリニューアル

・3階G棟(回廊廻り)に設置されていた、一般財団法人カーボンフロンティア機構による展示「石炭ってなあに？」の展示を改修し、新しく「石炭って知ってる？」として4月1日よりリニューアルオープンした。

・2階G棟(回廊廻り)に設置されていた、株式会社日立製作所による出展である「Nature Contact」の展示を改修し、新しく「Mirai Arcade ～今からキミは未来クリエイター!～」として3月1日よりリニューアルオープンした。

3) オリジナルハンズオン新展示の設置

技術グループ製作のオリジナルハンズオン新展示を下記のとおり設置・公開した。

- ・「ゾートロープ」 5階I棟ワークス展示室 9月04日
- ・「くるくるコーンビック」 2階D棟ものづくり展示室 9月11日
- ・「ゆらゆらバランスボール」 5階I棟ワークス展示室 11月18日
- ・「ダウンヒルレース」 3階G棟 3月30日

⑥教材コンテンツ開発

1) 館内ワークショッププログラムについて下記の通り更新・開発を行った。

・「クスリウム」展示室ワークショップ「くすりをみつける」「酸とアルカリ」更新を実施し、内部研修等を経て、7月から定常的に実施した。

・「鉄の丸公園一丁目」展示室工作教室「缶バッジ」の部品改良を行った。

・2026年1月より、アース製薬株式会社による実験スタジアムでの新規ワークショップ「お風呂で実験」の構成内容の開発を実施し、11月末に完了した。

2) 外部出張演習向けのプログラム教材開発について下記の通り開発を行った。

- ・「くるくるヘビコップ」(音声による共振を利用したおもちゃ)
- ・「ミニゴムピタ」(卓上で大気圧を実感できる器具)

⑦科学技術館アーカイブ記録及び公開

1) 2024年度に、過去のガイドブック類の整理と写真のデジタル化を実施し、一部をパネル展示とし、2025年5月6日まで公開した。また、デジタル化した写真データや科学技術館ガイドブックデータなどを使い、科学技術館Webサイトで、各展示室の変遷紹介の公開を計画し、年度末に公開

した。

2) 2024 年度の一般財団法人新技術振興渡辺記念会科学技術調査研究補助事業として、デジタル化した過去のガイドブックや過去の展示の写真等をもとに技術史をテーマにした教育手法の調査研究を行い、その成果をまとめて報告書を作成した(財団 HP にて報告書を公開)。

(2) 他施設向けのアウトリーチ活動としての取り組み

科学技術館の運営を通じて蓄積されたコンテンツを他施設などに貸出し、運営支援を行う活動を実施した。

①巡回展示物の貸出、外部出張演示など既存コンテンツの貸出、実施回数増への取り組み

1) 巡回展示物の貸出

11 テーマある巡回展示物の中から、2025 年 3 月会期スタートのものを含め、5 つのテーマの展示物について下記施設へ貸出を行った。

<科学捜査展>

- ・福島市子どもの夢を育む施設「こむこむ」 2025 年 3 月 15 日～4 月 6 日
- ・長崎市科学館 08 月 21 日～9 月 21 日
- ・福井原子力センター「あっとほうむ」 11 月 15 日～30 日

<スポーツを科学する>

- ・山梨県立科学館 2025 年 3 月 15 日～5 月 6 日
- ・長崎市科学館 8 月 2 日～8 月 17 日

<自然現象のメカニズム展>

- ・防府市青少年科学館 4 月 1 日～7 月 6 日

<光の世界>

- ・富山市科学博物館 7 月 19 日～8 月 31 日

<消防火災展>

- ・富士川楽座 7 月 19 日～9 月 7 日

2) 外部出張演示

こども食堂からの出張演示依頼があり、下記施設にて出張演示を実施した。

<ほんみょうじこども食堂(東京都墨田区)>

- ・「音ってな～んだ？」 11 月 19 日
- ・「空気のチカラ」 12 月 17 日
- ・「くるくる残像！ソーマトロープ コラージュバージョン」 1 月 21 日
- ・「ふわ～っとする～っと かんたんグライダー」 2 月 18 日
- ・「色で遊ぼう！カラフル探偵」 3 月 18 日

②学校連携プログラム開発のための調査

1) 5 月 30 日に日本科学未来館で開催された全国科学館連携協議会主催の『2025 年度 第 1 回国内研

修「探究学習における科学館利用の可能性」に職員数名が参加し、情報収集、意見交換などを実施した。

- 2) 大学生による当館での活動モデルの構築として、東京学芸大学理科教育系サークル Aggressive!! 主催によるワークショップ「重さの関係を使って犯行に使われた溶液の濃度の大小を調べよう！」と「ブラックライトで探せ！犯行の証拠！」を、8月8日から24日まで開催した夏の特別展「科学捜査展 returns」との連携イベントとして、特別展会場内で8月12日に実施した。また、3月5日から4月5日まで開催した、企画展「大磁展」の連携イベントとして、同サークルによる「可能性は無限大！磁石のふしぎ！大発見！」を企画展示室内で実施した。
- 3) 大学における学芸員養成課程の学生8名を受け入れ、博物館実習（館園実習）を実施した。

③他施設との交流機会拡大と連携強化

- 1) 教育研修として、4月23日から25日まで、東京ビックサイトにて開催された「第16回EDIX(教育総合展)東京」に職員が数名参加し、情報収集及び意見交換などを実施した。
- 2) 「令和7年度全国科学館連携協議会」の総会・国内研修会に職員が数名参加し、他館の施設運営に関する情報収集、意見交流などを実施した。
 - ・総会 5月30日 日本科学未来館
 - ・国内研修 9月4日、5日 大阪市立科学館、バンドー神戸青少年科学館
- 3) 6月17日に東京都美術館で開催された「令和7年度東京都博物館協議会総会 及び 日本博物館協会東京支部総会」に職員1名が参加し、他館の施設運営に関する情報収集、意見交流などを実施した。
- 4) 改称された「千代田ミュージアムネットワーク」連絡会に職員1名が参加し、東京都千代田区内の他館の施設運営に関する情報収集、意見交流などを実施した。
 - ・第1回 6月9日 万世橋区民館
 - ・第2回 11月5日 万世橋区民館
- 5) 7月および2月に開催された「令和7年度全国科学博物館協議会の総会・施設見学会」に職員が数名参加し、他館の施設運営に関する情報収集、意見交流などを実施した。
 - ・第1回総会 7月3日 国立科学博物館
 - ・第1回施設見学会 7月4日 千葉市科学館
 - ・第2回総会 2月17日 国立科学博物館筑波研究施設総合研究棟
 - ・第2回施設見学会 2月17日 国立科学博物館筑波研究施設収蔵庫
- 6) 10月22日、23日に開催された、「令和7年度全国科学館連携協議会東北ブロック会議」に、エリア外のオブザーバーとして職員1名が参加した。盛岡市子ども科学館が会場であり、巡回展貸出先の館も多く、館運営やワークショップに関して意見交流を行った。
- 7) 10月23日に福岡市科学館で開催された第34回指定都市科学館連絡会議にオブザーバーとして職員1名が参加し、事前・事後の調査票のやり取りも含め、他館の施設運営に関する情報収集、意

見交流などを実施した。

- 8) 12月10日、11日に開催された、「令和7年度全国科学館連携協議会中四国ブロック会議」に、エリア外のオブザーバーとして職員2名が参加した。会場がアース製薬株式会社赤穂工場であったこともあり、当館とアース製薬株式会社とのイベント連携紹介、ブロック加盟館の巡回展示物制作構想に対するアドバイスなどの意見交流を行った。
- 9) 2月8日、9日に浜松科学館みらいーらで開催された、「浜松サイエンスショーフェスティバル2026」に職員1名が参加し、サイエンスショーの観覧、サイエンスショーの構成・安全についてと実演の研修を受講した。
- 10) 3月2日に未来をつくる杉並サイエンスラボ IMAGINUS で開催された、「令和7年度全国科学館連携協議会関東ブロック会議」に職員2名が参加し、他館における実験ショーの取り組み講座の受講及び意見交換を行った。

④教育文化施設に対する企画・開発・保守支援事業

科学技術館の運営ノウハウを基に、教育文化施設に対する企画開発業務を実施した。

- 1) 新たな国立公文書館にかかる展示基本設計・展示実施設計支援および運営計画策定調査を行った。
- 2) 独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構の柏崎テストフィールド内に展示室設置構想があり、展示基本設計業務を行った。

1-2. 他館の運営

科学技術館の運営経験と実績を基に、埼玉県指定管理者として所沢航空発祥記念館の運営管理を担い、科学及び技術の普及啓発と人材育成に貢献する事業を実施した。

所沢航空発祥記念館の運営（埼玉县委託事業）

わが国初の飛行場として1911(明治44)年に開設された「所沢飛行場」は、現在埼玉県によって所沢航空記念公園として整備され、県民・市民の憩いの場となっている。所沢航空発祥記念館は、「日本の航空発祥の地」を記念した航空系博物館として、埼玉県により1993(平成5)年に同公園内に建設された。この館の建設にあたり当財団は、基本構想にはじまり展示設計・施工監理等を担い、その後開館後32年間運営に携わってきた。現在は、公益財団法人埼玉県公園緑地協会、一般社団法人埼玉県造園業協会とともに三者で共同事業体を組織し、指定管理者として運営にあっている。

埼玉県による設備更新および展示リニューアルに伴い、2025年9月1日より長期休館している。休館中は、教育普及事業を公園の施設等を利用して継続するとともに展示リニューアルの広報を目的として出張展示及び出張教室を開催した。また、設備更新及び展示リニューアルの工事へ対応等を推進している。

■入館者状況

2025年度の入館者数、前年度・同年同月までとの比較

※8月31日まで開館。設備更新および展示リニューアルのため2025年9月1日から長期休館中。

| | 入館者数 | うち大型映像館 |
|-------------|-------------------|------------------|
| 2025年度 | 105,380人 | 23,656人 |
| 2024年度 | 195,919人(83,934人) | 34,158人(18,087人) |
| 前年度比(同年同月比) | 53.8%(125.6%) | 69.3%(130.8%) |

(1) 展示館の運営

- ①安全を第一に、日常的な入館者対応及び展示解説・実演等を行なうとともに、展示の適切な保守・管理を行うことで、館運営を滞りなく実施した。
- ②開館から32年経過した展示ハード及びソフトコンテンツに対する適切な保守と見直しを実施し、予算の適正かつ有効な配分により効果的な更新・修繕を行った。
- ③埼玉県との連携のもと、県による設備交換工事計画の実施に協働した。
- ④館の趣旨に沿った航空に係る資料の調査・収集・保存活動を行うとともに、特別展において資料の活用を行った。

(2) 大型映像館の運営

- ①展示館と並ぶ所沢航空発祥記念館の特長である大型映像館について、安全を第一とした日常の運営活動を滞りなく実施した。上映するコンテンツとしては、航空関連のテーマを中心に、余暇利用を目的に所沢航空記念公園に来園するファミリー層等に向けた作品も幅広く組み入れた。会期中の総入館者数は23,656人であった。

<第1期>

- | | |
|---|--------------------------------|
| 1)-1 「ちびまる子ちゃん 南十字星に魅せられて」 | 開催日：4月1日～6月29日 |
| 1)-2 「ウイング―渡り鳥が教えてくれたもの―」 | 開催日：4月20日～6月29日、 5月8日～6月29日 |
| 1)-3 「ダイナソーミュージアム レイとネアンのドキドキ恐竜アドベンチャー」 | 開催日：4月22日～5月6日 |
| 1)-4 「空をめざして ～アンリ・ファルマン機と挑戦者たち～」 | |
| ※「天までとどけ」との同時上映 | 開催日：4月22日～5月6日 |
| 1)-5 「天までとどけ」 | |
| ※「空をめざして」との同時上映 | 開催日：4月22日～5月6日 |

<第2期>

- | | |
|--|-----------------|
| 2)-1 「ドラえもん 宇宙の模型」 | 開催日：7月1日～8月31日 |
| 2)-2 「ナットのスペースアドベンチャー」 | 開催日：7月1日～8月17日 |
| 2)-3 「ムーンベース 月面基地のミライ」 | 開催日：7月1日～8月17日 |
| 2)-4 「おしりたんていコズミックフロント～コズつとなぞとき！きえたきょうりゅうかせき～」 | |
| | 開催日：7月23日～8月31日 |

2)-5「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」

開催日： 8月19日～31日

②大型映像館でも上映できる非劇場向け映画のうち、航空機が登場する作品を中心に上映を行う企画「たまには映画 観に行かない？」を毎月1回開催した。「ひつじのショーUF0大フィーバー」(4/12)「トップガンマーヴェリック」(5/10、6/14)、「FLY/フライ」(7/11、8/9) 3作品で317名が鑑賞した。

③所沢市による「フランス航空教育団と日仏交流」次の100年事業で制作された短編映画「飛行場のまち 所沢からはじまる物語」を市と連携して大型映像館にて無料上映した。4/6、8/18～31の15日間で546名が鑑賞した。

④大型映像館連動イベント

大型映像館と連動させたイベントとして、展示館内で「ミニ恐竜展」を7月18日から8月31日に開催し、35,658名が入館した。

(3) 特別展等の開催

①記念館の所蔵資料を中心に、戦時中もっとも多く生産された国産戦闘機「零式艦上戦闘機」と、戦後初めて生産された国産旅客機「YS-11」を紹介する特別展「時代を翔ける零戦、そしてYS-11」を展示室にて開催した。また、ファミリー向けのイベントとして、ミニ特別展「ラ・ビレット展」、大型映像館連動ミニ企画展「ミニ恐竜展」、リニューアル工事に伴う休館前イベントを夏休み期間に開催した。

開催日： 7月18日～ 8月31日 入場者： 35,658人

②航空に関する分野の企業や教育機関より協力を得て、計画・実施を通して、ステークホルダーとの関係強化を図った。

(4) 施設の運営保守と安全管理の徹底

①展示はもとより、館建屋・設備・機器等の日常的保守、営繕、管理を滞りなく実施するとともに、運営に関わる多方面の安全管理を徹底した。

②利用者にとってのバリア低減を実現できるよう、未就学児、高齢者、障害者、外国人をはじめ、全ての入館者が安心して来館し、展示を楽しむことのできる館内の環境整備に努めた。

③来館者の安全を最優先するために必要な対策は適時実施することをはじめ、各種サイン掲示や巡視等による事故の未然防止、防犯カメラ設置、警備員定期巡回、機械警備等、保安と安全管理に努めた。

④年2回の全体消防訓練のほか、計画の見直し改善を繰返すとともに最新の情報を共有した小規模の防災・消防訓練を随時実施した。

(5) 連携活動

①埼玉県、及び所沢市など周辺の自治体や関係団体・関連企業等ステークホルダーとの連携活動を積極的に実施した。

②埼玉県博物館連絡協議会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本ジャイアントスク

リーン協会に引き続き加盟し、他館との連携・情報交換を行うとともに、研修等に参加することで活動の質的向上とスタッフの能力・資質の向上を図った。

- ③国内の航空系博物館等6団体と連携して、日本航空協会が開催(7月31日)したトークショー「赤い翼 パリー東京プロジェクト～世紀を超えて夢の実現へ日仏交流のかけはし～」のサテライト中継を行い18名が参加した。

(6) 柔軟で弾力的な運営への取り組み

各種の割引対応を行ない、来館者層の拡大やサービスの向上に繋げた。春休み・ゴールデンウィーク・夏休み等には固定休館日である月曜日も開館とする等、利用機会の拡大と利便性向上を図った。

(7) 広報活動

- ①余暇利用等の目的で来園する所沢航空記念公園利用者にも当館に興味を持ってもらえるよう、共同事業体を組む埼玉県公園緑地協会とも連携協力して園内広報を実施した。
- ②来館者はウェブページによる事前の情報収集を行う割合が高いことを踏まえ、記念館ウェブページを積極的に活用し、館の基本情報やアクセス情報、そして展示館及び大型映像館の案内情報や最新情報の発信に努めた。
- ③県内・市内からの利用者が多くを占める施設であることから、市政記者クラブを通じたプレスリリースを適宜行うほか、地元の地域紙および地域のコミュニティFMラジオと積極的に連携しPRを図った。
- ④当財団の運営する科学技術館内にも広報スペースを設けるほか、国内の航空系博物館とも連携し、広報物の相互配架を行った。

(8) 普及啓発活動

①飛行機工作教室

工作完成後に公園内でテストフライトができる利点を活かして、青少年を中心に航空機及び航空分野への興味・関心に繋がるよう、飛行機工作教室を開催した。

- ・開催回数：10回
- ・場所：研修室、野外ステージ控室及び記念館前広場
- ・参加人数：延べ180人
- ・実施内容：記念館ボランティアの指導のもと、飛行機模型の工作を行った後、記念館前広場でテストフライトを行った。
- ・成果：子供やその保護者が参加して、航空への興味関心を高めた。

②公開講座の開催

航空に関心がある方を主な対象として、航空分野をテーマとした公開講座等を開催した。

- ・開催回数：2回
- ・場所：所沢航空記念公園「彩翔亭和室」及び所沢市立所沢図書館集会室
- ・参加人数：74人

- ・実施内容：航空史、所沢飛行場に関する専門家等をお招きして、3月7日「所沢飛行場 最後のミッション」、3月28日「所沢飛行場小史～日本で最初の飛行場～明治編」のテーマで開催した。
- ・成果：事後アンケートでは94%以上が「満足」と回答し、所沢飛行場や航空に関する興味関心の醸成に寄与した。

③友の会「キッズ・チャレンジ倶楽部」の実施

当財団の持つノウハウを活かして、小学1年から6年生を対象とした「理科」「数学」「工学」「自然」など、多種多様な分野から組立てた工作・自然観察など、家庭や学校では体験できないプログラムを教室として実施することにより、青少年に航空や自然科学に興味を持ってもらう機会を提供した。

開催教室数：9回／年

- ・開催回数：9回
- ・場所：研修室、野外ステージ等
- ・参加人数：延べ123人
- ・実施内容：「マジックBOX」「電子楽器」「しかけ絵本」「鳥マグネット」「鳥の巣箱」等の工作教室、「ナイトパーク探検隊」「秋の生きものウォッチング」「鳥の巣箱観察」等の自然観察を行った。
- ・成果：事後アンケートでは95.8%以上が「満足」と回答し、航空や自然科学に興味の向上に寄与した。

④ワークショップコーナーの運営

科学技術館におけるノウハウを活用して、実演、実験、工作や体験をもとに来館者とのコミュニケーションを軸として解りやすく解説するワークショップコーナーを運営した。担当するスタッフのスキルアップ勉強会等を定期的で開催し、加えて既存プログラムのブラッシュアップを行うことにより、「空を飛ぶ」ことへの好奇心を刺激し、航空を通して広く科学・技術への興味・関心を促した。

⑤展示館内の実機スタンプ、重ね押しスタンプの開催

展示館内の実機スタンプ15種類のうち毎月3種類を押印するスタンプラリーと、飛行機のオリジナルスタンプを5個押して、図柄を完成させるスタンプラリーを開催した。なお、裏面には「日本の航空発祥の地 所沢」の紹介を入れてPRした。

開催日：4月1日～8月31日 スタンプ台紙 15,000枚配布

⑥出張展示・出張教室の開催

休館期間中は、展示リニューアルの広報を目的として出張展示及び出張教室を開催した。

- ・出張展示先：Japan Mobility Show 2025
- 埼玉県と協働し、YS-11 エンジン<ロールス・ロイス>、YS-11 大型模型展示をモビリティー

カルチャーエリアの60年代を象徴するモビリティとして展示した。

開催日：2025年10月29日～11月9日

- ・出張展示先：入間基地航空祭

埼玉県と協働し、展示リニューアルイメージ図、所沢飛行所ものがたりパネルの展示及び缶バッチづくりを実施した。

開催日：2025年11月3日 航空祭参加者数：260,000人

※缶バッチ280個作成、リニューアルチラシ1,900枚配布

- ・出張展示先：航空科学博物館

夏休み特別展で好評を得た「時代を翔ける零戦、そしてYS-11」パネル展を開催した。展示にあわせて、ワークショップ「のり付け飛行機を作って飛ばそう」を2月23日に開催し、78名が参加した。

開催日：2026年1月10日～2月23日 入場者数：22,631人

- ・出張教室先：所沢市内小学校

市内小学校の1.2年生を対象にのり付け飛行機づくりを行った。

開催日：2025年12月16.17日 参加者数：80人

- ・出張教室先：所沢市内中学校

市内中学校の1年生を対象に、所沢飛行場の説明、模型飛行についての質問に対応した。

開催日：2026年1月22日 参加者数：37人

- ・出張教室先：科学技術館

のり付け飛行機工作他のプログラムを5階ワークスで開催した。

開催日：2026年3月24日、24日 参加者数：128人

(9) ボランティア活動の充実

記念館の運営を支援するボランティアの活動の場として、飛行機工作教室、YS-11・格納庫の特別公開、展示航空機等の保守・メンテナンス活動等を実施した。ボランティアスタッフの豊富な経験と有用な知識を来館者に向けて提供する機会を設けることにより、航空への興味・関心に繋ぐとともに地域との連携を深めた。

(10) ミュージアムショップ及びレストランの運営

①ミュージアムショップ

ミュージアムショップ店内は狭小であるため密を避けるため、店舗前のエントランスロビーに商品棚を展開し運営した。特別展と関連したオリジナルTシャツの開発・販売を行った。

休館後は、11月より記念館横の公園の「小屋」を借りて、土日祝13時～16時のみ営業を行った。

②カフェレストラン

通常の店内利用での営業及びテイクアウトも進め、また季節限定メニューを取り入れるなど、利用者サービスの向上に努めた。

(11) その他の活動

- ①開館以来 32 年を経過したことで老朽化等が課題となる常設展示及び館施設・設備について、日常的業務では修繕等を行い品質の維持向上を図った。また、埼玉県による「展示リニューアル計画」に協働し推進した。
- ②埼玉県による「施設の長寿命化計画」に協働し推進した。
- ③公園利用者への更なるサービス向上を図るため、指定管理共同事業体間の連携をより活性化し、「空フェス」イベント等の共同開催を実施した。

2. 科学技術の普及啓発に関する体験活動及びセミナーの開催

科学技術体験イベント、科学オリンピックなど、科学技術への興味関心を引き起こすレベルから専門家を目指すレベルまで、広範な活動を通して科学技術系人材の育成事業を推進します。

また、優れた科学技術映像を選奨するコンクールと優秀作品の全国の科学館での上映を行い、映像を通じた科学技術の普及啓発事業を推進します。また、放射線等に関する理解増進活動等を推進し、環境やエネルギーに係る科学技術の普及啓発を図ります。

2-1. サイエンス友の会の活動

生物・物理(技術)・化学・地学・天体気象をテーマにした、小学生を対象とした実験イベントを中心に、未就学児と保護者を対象にした低年齢向けや中学生から大人向けといった年齢層を限定したイベント、企業・団体・大学の協力によるイベントや施設見学会、職員の企画によるオリジナルのイベントなど各種プログラムを、4歳から大人までのメンバーを優先参加として、4月から翌年3月にわたって計58回開催し、延べ1,046人が参加した。なお、2025年度の年間パスポートの加入総数大人529名、中高14名、子ども504名の計1,047名であった。

2-2. 科学技術体験イベントの開催

(1) 「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」の開催

理科実験や工作の体験を通じて、青少年に科学の不思議やものづくりの楽しさへの興味・関心を喚起することを目的として、科学技術体験イベントを開催した。

①開催日時・場所

7月26日～27日 9:30～16:00

科学技術館 1階イベントホールおよび屋外

②参加人数

延べ16,675人

③実施内容

青少年が科学の基礎から応用・発展的内容まで体験・学習できるよう、全国から募集した理科

実験に優れた個人による出展に加え、企業や研究機関等による産業技術や先端科学に関連する実験の出展など、多様なプログラムを実施した。

また、日本学生科学賞中央最終審査会に出品した中学校・高等学校6校が、研究内容の展示およびプレゼンテーションを行った。

④成果

全国から55の実験名人および団体が出展し、楽しく興味深い実験や工作体験を通じて、青少年の科学に対する関心やものづくりへの興味を高めることができた。

さらに、出展者や運営の補助として高校生・大学生のボランティアが参加し、科学の魅力を再認識するとともに、知識の向上を図る機会となった。

(2) STEM/STEAM 教育プログラムの実施

①STEM 教育プログラムの実施（ボーイング社助成事業）

小中学生を対象に、科学、技術、工学、数学の各分野を横断的に学ぶことができるSTEM(Science, Technology, Engineering and Mathematics)教育に基づいたショー・ワークショップなどのSTEMプログラム「科学技術館 航空宇宙STEMワークショップ～飛べ！跳べ！翔べ！～」を、株式会社ANA総合研究所、日本航空株式会社の協力の下、ボーイング社との共催により実施した。

1)開催日・場所

11月3日

科学技術館 ボーイングSTEMプログラム in ジャパン

2)参加人数

200名

3)実施内容

サイエンスショー及びワークショップ

4)成果

事後アンケートで「ものが飛ぶ仕組みや歴史がわかった」という声とともに、「飛ぶ仕組みなど、もっと知りたいと思った」という声も見られ、参加者のSTEMへの関心向上に寄与した。

(3) 科学教室の実施

見て聞いて考える工作などをテーマとした体験的なプログラムを通じて小学生が科学に触れる機会を提供し、科学への興味・関心の喚起と基礎的な科学リテラシー形成に寄与することを目的として、科学教室を実施した。

①開催回数・場所

年間18回

千代田区近郊の学童クラブ等および科学技術館

②参加人数

延べ310人

③実施内容

2025年度も継続事業として、千代田区近郊の学童クラブ等を対象とした出前科学教室および科学技術館での科学教室を実施した。加えて、新たな取り組みとして、最新回(第66回)科学技術映像祭の受賞作品の中から子ども向けのプログラム上映を含めた折り紙の科学教室の開講を積極的に行った。

④成果

新たに公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団との共催により、オルゴール工作教室やフードダイバーシティワークショップを開催するなど、事業内容の充実を図ることができた。

(4) ゴジラサイエンス展の開催(公益財団法人JKA補助事業)

①事業名

未来の安全、安心で暮らすための、防災・減災・予測の科学技術の普及啓発、及び取組補助事業

②実施目的

ゴジラ作品に登場する科学技術や災害メタファーを人類への警告ととらえ、安全で安心な暮らしのために必要な視点を提供する。

③実施内容

2026年1月15日から27日まで、科学技術館にて開催。

④成果、参加状況

特別展会場への延べ来場者数は、目標の約1.3倍となる40,431人が来場。

アンケートでは95%以上が「満足」と回答し、防災・減災・予測に対する意識の向上とともに、科学技術に対する理解および期待の醸成に寄与した。

2-3. 科学オリンピック国内大会・国際大会

(1) 日本生物学オリンピック 2025 の開催、第36回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

(国立研究開発法人科学技術振興機構 支援事業)

日本生物学オリンピックは、大学等高等教育機関就学前の青少年を対象として、生物学への関心が高く才能ある生徒に国際的なコンテストへの挑戦の機会を提供してその才能を伸ばし、将来のわが国の科学技術を支える人財の育成を図るとともに、広く一般に生物学・生物学教育に対して興味と関心を持ってもらう活動であり、国内大会「日本生物学オリンピック 2025」を開催するとともに、国際大会「第36回国際生物学オリンピック」への日本代表派遣を行った。

①日本生物学オリンピック 2025 の開催

1) 予選

・開催日時・場所

7月13日 13:30~15:00

オンライン CBT: Computer Based Testing、原則自宅よりアクセス

・参加人数

1,516名

・実施内容

参加申込受付を5月1日から31日まで実施し、予選を7月13日にオンラインCBTで実施した。

・成果

日本生物学オリンピック2025本選へ進出する60名を選抜した。

2)本選

・開催日・場所

8月18日～21日

・東京都立大学 南大沢キャンパス(東京都八王子市南大沢1-1)

・参加人数

59名(欠席:1名)

・実施内容

実験試験、理論試験、研究体験、交流会などを実施した。

研究体験は、東京都立大学の現役研究者および協賛企業(株式会社ニコン)が担当する6つのブース(班)に分かれ、それぞれに講義と実習を実施。内容は、10分のプレゼンテーションにまとめられ、交流会で発表された。

・成果

以下の通り、成績優秀者を表彰した。

金賞:10名(女性2名,高2以下5名)

銀賞:10名(女性4名,高2以下1名)

銅賞:20名(女性7名,高2以下6名)

敢闘賞:19名

特別賞:東京都知事賞(予選,本選総合1位)1名(高3男子)

東京都立大学学長賞(本選総合1位)1名(高2女子)

東京都教育委員会賞(実習試験1,2 総合1位)1名(高3男子)

ニコン特別賞(実習試験2 1位)2名(高1,3男子)

大会実行委員特別賞 中学3年生 1名

大会実行委員特別賞 複数回本選選抜者 10名

また、日本生物学オリンピック2025代表選抜試験へ進出する日本代表候補12名(女性:4名)を選抜した。

3)冬期特別セミナー

・開催日・場所

12月25日、26日

東京大学 駒場キャンパス(東京都目黒区駒場3-8-1)

- ・参加人数

12名(日本代表候補者)

- ・実施内容

マイクロピペット講習、微生物学実習、分子生物学実習、統計学演習などを実施した。

- ・成果

後述2026年3月の代表選抜試験や、7月の国際大会へ向けた特訓を施した。

4) 代表選抜試験

- ・開催日・場所

2026年3月15日

科学技術館 第1会議室

- ・加人数

11名(日本代表候補者, 欠席: 1名)

- ・実施内容

理論試験、今後のガイダンス

- ・成果

成績優秀者から2026年7月にリトアニア共和国で開催される第37回国際生物学オリンピックへ派遣される日本代表選手4名と、次点者2名を選抜した。

②第36回国際生物学オリンピックへの日本代表派遣

- ・開催日・場所

7月20日～27日

フィリピン共和国/ケソン市 Ateneo de Manila University ほか

- ・参加人数

4名(日本代表)

- ・実施内容

理論試験、実験試験、交流会、遠足など

- ・成果

日本代表選手4名全員が銀メダルを受賞した。

また、帰国翌日の7月28日、文部科学省を表敬訪問し、同4名全員が文部科学大臣表彰を受賞した。

2-4. 教員のための理科実験指導育成講座開催

(1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催(公益財団法人東京応化科学技術振興財団助成事業)

本事業は、理科指導に苦手意識を持つ教員を対象に、実験の楽しさと原理理解を通して実践力の向上を図ることを目的として、実験工房および北の丸公園において実施した。講師には「青少年の

講

ための科学の祭典」全国大会実行委員を迎え、生物・化学・地学・物理の4分野について、年2回座を開催した。教科書レベルの実験を題材に、授業で再現可能な実験実習と理論理解の機会を提供した。これにより、教員の指導力向上を通じて科学教育の普及・啓発を図り、青少年の科学への興味・関心の育成につなげることを目指した。

①開催日時・参加人数・実施内容

| | | |
|--------|-------------|--------------------------------------|
| 8月23日 | 10:30~12:15 | <生物分野> (参加者16名) 「骨と筋肉のしくみと進化」 |
| | 13:30~15:15 | <化学分野> (参加者15名) 「電池とその反応」 |
| 8月24日 | 10:30~12:15 | <地学分野> (参加者16名) 「望遠鏡を見る、望遠鏡で見る」 |
| | 13:30~15:15 | <物理分野> (参加者14名) 「凸レンズによってできる像」 |
| 11月16日 | 10:30~12:15 | <生物分野> (参加者10名) 「野外における自然観察の調査方法」 |
| | 13:30~15:15 | <化学分野> (参加者13名) 「物質の状態変化と沸点、融点」 |
| 11月24日 | 10:30~12:15 | <地学分野> (参加者15名) 「フィールドワーク」 |
| | 13:30~15:15 | <物理分野> (参加者14名) 「仕事とエネルギー」 |

②成果

本事業では、8月および11月の2回にわたり講座を実施した。アンケートでは「授業で活用したい」「児童・生徒に試したい」など前向きな回答が多く、教員の理科実験に対する意欲の向上が確認された。また、第2回では活用意識を把握した結果、授業や野外活動への具体的な実践意欲が示され、本講座の実践的効果が明らかとなった。さらに、SNS等による広報強化により新規層への関心の広がりも見られ、今後の参加者拡大が期待される。

2-5. 科学技術映像祭の開催と助成金を活用した広報

(1) 第66回科学技術映像祭の開催

2025年度は、映像祭のホームページを刷新するとともに、新たに学生部門を新設した。これにあわせて、応募促進を目的として動画制作ガイドラインおよび紹介映像を制作・公開した。

①募集期間

4月1日~5月15日

②応募作品

一般部門 40 作品、学生部門 6 作品

③実施内容

6 月に応募作品の審査を行い、入選作品を選定した。7 月 28 日には、科学技術館サイエンスホールにおいて表彰式を開催した。新設した学生部門からは 2 作品に学生部門奨励賞を授与した。

④成果

入選した 17 作品については、全国の科学館等と連携し上映会を実施することで、広く鑑賞機会を提供することができた。さらに 10 月には、サイエンスアゴラ 2025(日本科学未来館)に出展し、受賞作品の上映イベントを実施することができた。

(2) 助成金を活用した映像祭および受賞作品の広報(日本宝くじ協会助成・SARTRAS 助成)

日本宝くじ協会の令和 7 年度社会貢献広報事業に採択され、本助成を活用した映像祭および受賞作品の広報事業の準備を進め、広報媒体として、日本人による発明であり宇宙分野でも応用されている「ミウラ折り」を採用し、映像祭の認知向上および若年層への訴求を図った。

また、SARTRAS 助成を活用し、学生部門の広報および映像祭の認知向上に努めた。

①実施内容

「ミウラ折り」の紙面には、第 66 回映像祭の入選作品を掲載し、QR コードからスムーズに映像へアクセスできる構成とした。さらに、もう片面では「科学技術×発明」の視点から、QR コードおよびミウラ折りの開発経緯を紹介し、いずれも日本人による発明であることを解説した。

SARTRAS 助成では、以下の取組を実施した。

- ・学生部門の映像制作促進を目的とした制作実例コンテンツの作成
- ・第 66 回映像祭受賞作品を活用し、学生部門を意識した上映会の開催
- ・第 67 回科学技術映像祭に向けた周知活動の実施

②成果

未来を担う子どもたちに科学技術への関心と創造への意欲を喚起することを目的として制作したミウラ折り媒体は 85,000 部を作成し、全国の科学館、博物館、発明協会および発明クラブ等に配付し、広く活用された。

また、学生部門への理解促進および参加意欲の向上に寄与するとともに、次回開催に向けた基盤整備を進めることができた。

2-6. 放射線・エネルギー等に関する理解増進活動

小・中・高等学校等の児童生徒、教育職員を対象に、放射線やエネルギー等に関する正しい知識の普及と理解促進を図った。

(1) 放射線に関する教職員研修及び出前授業の実施(文部科学省委託事業)

文部科学省から 2025 年度の「放射線に関する教職員研修及び出前授業実施事業」を受託し、学校教育における放射線に関する教職員等を対象とした研修と児童生徒等を対象とした出前授業を日本

全国で実施した。

①開催期間：5月15日～2026年1月31日

②開催場所、実施回数、参加人数

| 開催場所 | 実施回数 | 参加人数 |
|--------------|------|---------|
| 小学校 | 44回 | 2,559名 |
| 中学校 | 79回 | 6,754名 |
| 高等学校 | 35回 | 2,491名 |
| その他(特別支援学校等) | 3回 | 102名 |
| 教員研修等 | 19回 | 467名 |
| 計 | 180回 | 12,373名 |

③成果

児童生徒の93%が「授業はわかりやすかったか」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。また、教員等の約100%が「研修の内容に満足できたか」という設問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。

(2) 放射線教育を支援するための情報提供事業の実施

放射線教育を実施する教員を支援するとともに、児童生徒に対して放射線に関する理解を深めるための情報を提供する放射線教育支援Webサイト「らでい」を運用した。

(3) エネルギー・放射線教室の開催

「青少年のための科学の祭典・全国大会」及び科学の祭典の地方大会において、エネルギー・放射線教室(実験ショー)を実施した。

①開催日、開催場所、参加人数

| 開催日 | 開催場所 | 参加人数 |
|------------|--------------------|--------|
| 7月26日、27日 | 全国大会(東京) | 1,333名 |
| 8月3日 | 第32回おもしろ科学実験 in 富山 | 159名 |
| 9月13日 | 山形 | 585名 |
| 9月20日、21日 | 宮崎大会 | 651名 |
| 10月4日、5日 | 名古屋大会 | 1,418名 |
| 10月25日、26日 | 松山大会 | 730名 |
| 11月3日 | 釧路大会 | 233名 |
| 11月8日、9日 | 京都大会 | 445名 |
| 11月8日 | 倉敷大会 | 647名 |
| | 計 | 6,201名 |

②成果

各大会は親子での参加がほとんどであり、実験を通じたエネルギー・放射線に対する理解促進を図ることができた。

(4) 放射線教材コンテストの実施

放射線について学んでいる大学生、大学院生等を対象に、児童生徒が学ぶための新しい教材を募集する「2025年度放射線教材コンテスト」を実施した。

①募集期間：2025年7月4日～9月30日

②応募校数：18校

③応募総数：244作品

④成果

応募作品の中から、最優秀賞(1)、優秀賞(2)、入選(3)、特別賞(6)を選定し、発表会、表彰式を開催した。

(5) 放射線授業事例コンテストの実施

小・中・高等学校の教育関係者を対象に、放射線教育を検討している教員の参考となる企画、実践事例、教材・教具の開発、学習指導案などの放射線授業事例を募集する「2025年度放射線授業事例コンテスト」を実施した。

①募集期間：8月1日～10月31日

②応募総数：115作品

③成果

応募作品の中から、最優秀賞(1)、優秀賞(2)、入選(3)、特別賞(6)を選定し、発表会、表彰式を開催した。

(6) 福島に学ぶプロジェクトの実施

福島県の小・中・高(高専)等での放射線教育の実践活動を支援し、実践事例を放射線教育支援サイト“らでい”にて情報発信する「2025年度放射線教育実践・情報発信事業 福島に学ぶプロジェクト」を実施した。

①募集期間：7月22日～8月31日

②応募総数：3校

③成果

応募校をサポートするとともに、応募校の実践レポート及び児童生徒のメッセージをホームページにて紹介した。

(7) 放射線教育発表会の実施

放射線教育に取り組んでいる方々を対象に、今後の放射線教育に関する情報交換と研修の機会として、12月27日に科学技術館で「2025年度放射線教育発表会」を実施した。内容は、①放射線教材コンテスト及び放射線授業事例コンテストの受賞作品の演示、②「福島県に学び、これからの放射線教育を考える」をテーマとしたパネルディスカッションの2部構成とした。

①開催日時：12月27日 13:00～17:30

②開催場所：科学技術館1階 イベントホール

③参加人数：180名

④成果

参加者の多くが、放射線教材コンテスト(99%)、放射線授業事例コンテスト(100%)、パネルディ

スカッション(86%)について「興味深かった」と答えた。また、回答者の99%が「今後、放射線授業に積極的に取り組んでみようと思った」と回答した。

(8) 若手教員を対象とした理科実験研修会の実施

在職10年以内の若手教員を対象に、理科の教科書に掲載されている「定番実験」を安全・安心して実験できるノウハウを研修する「2025年度 若手教員を対象とした理科実験(実習)研修会」を実施した。また、本研修会の受講者等を対象に「2025年度フォローアップ研修会」を実施した。

①開催日、理科実験内容(実習) 対象学年、参加人数

| 開催日 | 理科実験内容(実習) 対象学年 | 参加人数 |
|--------|------------------|------|
| 8月19日 | 中学1年生 | 23名 |
| 8月20日 | 中学2年生 | 24名 |
| 8月21日 | 中学3年生 | 24名 |
| 12月27日 | 2025年度フォローアップ研修会 | 12名 |
| | 計 | 83名 |

②成果

100%の参加者が「満足」である(「非常に満足(95%)」、「満足(5%)」)と回答した。またフォローアップ研修会では100%の参加者が「満足」と回答した。

3. 科学技術の普及啓発や振興に関する調査研究事業

7月26日、27日に科学技術館で開催された「青少年のための科学の祭典2025全国大会」の来場者を対象として、来場者の属性、来館のきっかけ、参加の印象、科学の祭典に対する印象、運営面の課題を知ることがを目的として、アンケート調査をした。運営面で参考になる結果として、来場回数の分析を行ったところ、「初めて来場した」との回答が約半数を占める一方、「2回以上来場」が約半数となり、さらに10回以上来場しているリピーターも約1割見られるなど、新規来場者と継続来場者が混在している状況が確認された。この調査結果を踏まえ、初来場者にも参加しやすい出展内容を維持しつつ、継続来場者の満足度向上を図るため、出展内容の新規枠の追加や、より高度で専門的な知識・情報を提供できるブースの誘致を進めることとした。

II. 情報システムの設計開発と運用サービス事業

実施した主な業務は次のとおりである。

1. 情報システムの設計開発・・・11件
2. 情報システムの運用サービス・・・11件

Ⅲ. 科学技術館施設の利用促進事業

当財団では、科学技術館の施設の一部を貸し出している。1階の展示・イベントホールは、各種の販売会、技術展、製品発表会、イベント他。地階のサイエンスホールは、週末を中心にエンターテインメント関連の各種イベント、平日は講演会、セミナー、研修会等に貸し出している。また、事務棟5階、6階の会議室も貸し出している。当事業は、収益事業として運営しており、公益目的事業の継続実施の要となる重要な事業である。

今年度、大型案件を獲得し、年度初期から売上げを大きく回復させた。得意先を中心に各施設の日程調整を行い、顧客満足度を向上させることに繋げた。

■各会場利用件数

| 件数／年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 催事場利用件数 | 51 | 43 | 58 | 52 |
| ホール利用件数 | 106 | 91 | 99 | 105 |
| 会議室利用件数 | 203 | 190 | 200 | 281 |

Ⅳ. 補助を得て実施する事業

2025年度は実施なし

Ⅴ. 助成を得て実施する事業

1. 青少年のための科学の祭典 2025 全国大会

(独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金)

「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」の開催

(詳細は、P16－ 2-2. － (1)－ ①青少年のための科学の祭典 2025 全国大会を参照)

2. 教員のための理科実験スキルアップ講座

(公益財団法人東京応化科学技術振興財団 科学教育の普及・啓発事業)

教員のための理科実験指導育成講座開催

(詳細は、P20－ 2-4. － (1) 教員のための理科実験スキルアップ講座の開催を参照)

3. 科学技術映像祭

(一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会・共通目的基金)

(詳細は、P21－ 2-5. － (2) 第66回科学技術映像祭開催を参照)

4. 「科学技術館の展示史に見る産業技術の変遷から技術史への興味を促す教育手法の調査研究」(一般財団法人新技術振興渡辺記念会)

一般財団法人新技術振興渡辺記念会の科学技術調査研究助成事業の助成金を活用し、「科学技術館の展示史に見る産業技術の変遷から技術史への興味を促す教育手法の調査研究」をテーマとして、科学技術館の過去の展示に関する資料を収集し、その資料をベースに展示や教育プログラムを実施して、技術史教育の手法について考察した。

5. 「未来の安全、安心で暮すための、防災・減災・予測の科学技術の普及、啓発及び取り組み」に関する特別展の実施(公益財団法人 JKA)

(詳細は、P16-18- 2-2. - (4) 「ゴジラサイエンス展の開催」を参照)

VI. 2025 年度イベント開催一覧表

2025 年度下記のイベントを科学技術館内で実施した。

(1) キャンドル・オルゴール工作

4月 1日～6日、19日～20日、26日～29日
5月 3日～6日、10日～11日、24日～25日、31日
6月 1日、7日～8日、14日～15日、21日～22日、28日～29日
7月 6日、12日～13日、19日～22日、24日～31日
8月 1日～24日、30日～31日
9月 6日～7日、13日～15日、20日～21日、23日、27日～28日
10月 4日～5日、11日～13日、18日～19日、25日～26日
11月 3日、15日～16日、22日～24日、29日～30日
12月 6日～7日、13日～14日、20日～21日
1月 4日～6日、10日～12日
2月 28日
3月 1日、7日～8日、14日～15日、20日～22日、26日～31日

(2) ミニパネル展示「サクラ・ラボ」

4月 1日～22日

(3) 美ら海キャニスターを作ろう ～サンゴについて楽しく学ぶワークショップ～

4月 1日～6日、26日～27日、29日
5月 3日～6日
7月 26日～31日
8月 1日～24日
10月 26日
11月 2日～3日、16日、23日～24日
1月 4日～5日、11日～12日
2月 1日、8日、11日、15日、22日～23日
3月 20日～22日、26日～31日

(4) 科学ライブショー「ユニバース」

4月 12日、26日
5月 10日、24日
6月 14日、28日
7月 12日、26日
8月 9日、23日
9月 13日、27日
10月 11日、25日
11月 8日、22日
12月 13日、27日
1月 10日、24日

2月14日、28日

3月14日、28日

(5) Chim-Don ひろば

- ・さくらキラメキ缶バッヂをつくろう 4月13日
- ・プリントボディバッグづくり 5月25日
- ・スライム祭り! 6月29日
- ・苔テラリウム体験 7月13日
- ・指紋検出キットづくり 8月10日~11日、30日
- ・やってみよう! 葉脈キーホルダーづくり 09月07日
- ・楽しく飾ろうフェイクスイーツ缶ケース 10月12日
- ・自然を身近に♪葉脈標本&ドライフラワーキーホルダーづくり 11月30日
- ・Xmas スイーツ缶づくり 12月14日
- ・ねこさんバッグづくり 2月22日
- ・磁石で模様が動く!★マグネットシール研究所★ 3月22日
- ・だれでも工作
 - *アップサイクル☆キーホルダー 4月13日
 - *鉱石プリントポーチ 5月25日
 - *スライム祭り延長戦 6月29日
 - *クロマトグラフィー缶バッヂ 8月10日~11日
 - *クリスマスクッキーキーホルダーをつくろう★でころう 12月14日
 - *うちのこのけだまだま 2月22日

(6) 科学技術館でモールズ体験 ~モールズ信号「SOS」を打ってみよう!~

5月3日~5日、8月2日~3日

(7) 英語「で」発明しよう! 米国発・本格キットでワークショップ@科学技術館

4月6日、5月11日、6月15日、7月21日、8月24日、9月7日、
10月19日、11月16日、12月14日、1月18日、2月15日、3月15日

(8) なぜなにかがく実験教室

5月17日、7月12日、9月6日、11月8日、1月24日、3月14日

(9) クルマのリサイクル作品コンクール

5月30日~6月30日

(10) 蚊のひみつを知ろう!

6月27日~29日

(11) 鉄はくるくるリサイクル 遊ば~触ろ~学ば~フェス

7月19日

(12) 「エレモン」サイエンスワークショップ

7月20日

(13) おさかなシール de ガラス小物をつくろう

7月21日

(14) モーターのしくみ ~モーターが回るナゾにせまる!~

- 7月22日
- (15) 子ども主導。『後悔しない進路選択』とは？ 特別講演会
7月27日
- (16) 小学生ロボコン2025 とうきょう予選会
7月27日
- (17) 「自転車広場」夏休み自転車こども相談
8月1日、22日
- (18) 「自転車広場」展示解説ツアー
8月1日、12日、22日
- (19) 銅の日イベント
8月2日
- (20) 水のワークショップ・展示会
8月4日
- (21) 「鉄の丸公園1丁目」クイズラリー
8月6日～7日
- (22) 夏休み石炭実験教室
8月7日～8日
- (23) 夏休み特別展「科学捜査展 returns」
8月8日～24日
- (24) まわしてあそぼう！くるくるシャボン玉
8月10日～11日
- (25) 自転車科学教室
8月12日
- (26) 東京学芸大学理科教育系サークル Aggressive!! 「科学捜査展 returns」関連ワークショップ
8月12日
- (27) 製菓協 クスリウム研究室 2025 秋
9月14日～15日
- (28) マウスウォッシュ研究室 ～お口ケアを楽しく学ぼう！～
10月31日～11月2日
- (29) 東京パズルデー2025 in 科学技術館
11月8日～9日
※イベント内で実施した「科学技術館謎解き 2025 科学技術館修復管理室」は、
2026年5月頃まで継続実施。
- (30) 寝良導夢(シンラドーム) 科学ライブショー「ユニバース」＜熟睡版?!＞ ～熟睡プ
ラ寝たりウム～
11月23日
- (31) カラフルなクリスマスカードをつくろう！
12月6日～7日

- (32) ガラス皿でクリスマスプレートをつくろう
12月20日
- (33) アルギン酸でつぶつぶボトルをつくろう!
12月21日
- (34) 第29回全国児童生徒地区優秀作品展
1月22日～26日
- (35) デジタルでみる東京自然いきもの展
1月24日～2月23日
- (36) 2026年春の特別展「大磁展～SUPER MAGNET TEN～」
3月5日～4月5日※ ※3月18日は休館日のため除く
- (37) 【大磁展】ぱたぱたマグネット
3月7日、14日、23日
- (38) 【大磁展】科学マジックショー
3月7日、21日、29日～30日
- (39) 【大磁展】磁石って何者?～鉄となかよし?～
3月14日、20日、27日～28日
- (40) さくらまつり 2026in 科学技術館
3月19日～4月16日
- (41) くずりはどう生まれる?体験ツアー
3月23日
- (42) 【大磁展】可能性は無限大! 磁石のふしぎ! 大発見!
3月24日
- (43) さくらまつり さくらシール de ガラス小物をつくろう
3月28日
- (44) 【大磁展】磁石で「音」!?本格スピーカー工作教室
3月31日
- (45) サイエンス友の会イベント
4月20日、27日
5月4日、17日、18日、25日、31日
6月1日、8日、22日
7月10日、20日
8月1日、9日～10日、13日、23日
9月14日、21日
10月5日、26日
11月9日、15日、29日～30日
12月7日、14日、20日～21日
1月11日、17日
2月8日、22日
3月8日、20日～21日、27日、30日

—以 上—